

万葉図書・情報室だより53号

『文選』と『万葉集』

『万葉集』に収録されているのは、歌だけではありません。漢文や漢詩もあり、また題詞や序文はすべて漢文で書かれています。万葉びとたち、特に官人や知識人たちは熱心に中国の文学や思想を学びました。その中でも、『万葉集』の作品に大きな影響を与えたといわれている重要な文献に、『文選』という詩文集があります。

『文選』は、周から中国六朝期に至るまでの、約一〇〇〇年間の著名な詩文のアンソロジーです。梁の時代（六世紀前半）に、文学に造詣の深かった若き皇太子・昭明太子（蕭統）によって編纂されました。のちの宋の時代（十〜十三世紀）には、科挙の詩文創作試験における必読の書となり、『文選』に精通すれば科挙には半ば合格したも同然」とまで言われるほど、収録された作品は美文・名句の手本とされました。

万葉びとたちが目にしていたのは、初唐の李善という学者の注釈が施された『文選』であったといわれています。通称「李善注文選」です。その一例を見てみましょう。

張衡（後漢の科学者・文人）の「帰田賦」（『文選』巻十五）には、是に於て仲春の令月、時和し氣清む。（於是仲春令月、時和氣清。）とあります。この「令月」について、李善は「儀礼曰、令月、吉日。鄭玄曰、令、善也。」と注しています。

『儀礼』は古代中国の儒教經典の一つで、そこには「令月は吉日」であると記されており、さらにその『儀礼』に注を施した鄭玄（後漢の著名な学者）は、「令は善なり」と注しています。李善はこの『儀礼』と鄭玄の注を引用することで、「帰田賦」の「令月」の解釈を示そうとしたのです。

右に引用した「帰田賦」の一文は、元号「令和」の典故となった「梅花三十二首」の序文「時に、初春

の令月にして、氣淑く風和ぎ」に類似する表現として注目されました。序文の作者と目される大伴旅人は中国文学に対する教養の深い人でしたので、当然、「李善注文選」を見ていたものと推測されます。従って、旅人は「令月」が「吉日」であり、「善」という意味であることを理解した上で、「初春の令月」（初春の善き月）と表現したのだといえます。

春の美景を表現する、という意味では両者は確かに似ています。ただし、「帰田賦」は隠遁して自由な生活を送ることを望む内容の賦です。正月に梅花を愛でる宴の美景を述べようとした旅人の序文とは、まったく理念の異なる作品です。旅人を含めた万葉びとたちは『文選』を大いに参考にしましたが、ただ模倣したわけではありません。『文選』の作品に刺激を受けながら、新しい作品の創造へと邁進していったのです。

※『文選』の引用は小尾郊一 全釈漢文大系『文選（文章編）二』集英社に、「李善注」の引用は『文選』（上海古籍出版社）に、『万葉集』の引用は中西進『万葉集 全訳注原文付』講談社文庫による。

（主任研究員 大谷 歩）

○新着図書案内○

☆飛鳥・藤原の官都を語る

（相原嘉之／吉川弘文館）

☆古事記講話

（菅野雅雄／おうふう）

☆日本古代官都史の研究

（橋本義則／青史出版）

☆国家形成期の王宮と地域社会

（古市晃／塙書房）

☆橿原考古学研究所論集第十七

（橿原考古学研究所編／八木書店）

☆飛鳥宮跡出土土簡

（橿原考古学研究所編／吉川弘文館）

☆万葉文化論

（上野 誠／ミネルヴァ書房）

☆古代文学と隣接諸学 1〜4

1 古代日本と興亡の東アジア

2 古代の文化圏とネットワーク

3 古代王権の史実と虚構

4 古代の文字文化

（竹林 舎）

利用案内

開館時間 午前10時〜午後五時半

休館日 1月曜日（祝日の場合は翌日）・年末年始・展示替日

図書室のご利用は無料です

閲覧でのご利用になります。

コピーサービス 白 黒 一枚 10円

カラー 一枚 50円

奈良県立万葉文化館万葉図書・情報室

奈良県高市郡明日香村飛鳥一〇

0744-54-1850（代）